光明禅寺

第526号

令和八年七月

現在に活きる
仏の教え

厳しい練習でも一日だけなら誰でも出来る。週三～四日でも多くの人が出来る。でも毎日となると、途端に出来る人は少なくなる。大リーガーとは、そういうことが出来る人たちのことだ。

死に物狂いで生きるのは、権利じゃなくて、義務だ。

金がないから、何も出来ないというヤツは、たとえ金があっても、何も出来ない。

電話２２－４１２７（２回線）
ケイタイ０９０－７９８１－９１２３
ＦＡＸ２４－３５１９

（県・市文化財指定安置所）
〒八九一－〇四〇二指宿市十町南迫田二七六八

七月の行事

一 暁天坐禅会 第一日曜（五日）、第三日曜（十九日）朝六時

一 地蔵尊・水子供養
六月灯 観音様・鎮守神
二十四日 二時

光明禅寺

第526号

令和八年七月

電話２１−４１２７（２回線）
ケイタイ０９０−７９８１−９１２３
ＦＡＸ２４−３５１９

現在に活きる
仏の教え

（県・市文化財指定安置所）
〒八九一ー四〇二　指宿市十町南迫田二七六八

厳しい練習でも一日だけなら誰でも出来る。週三〜四日でも多くの人が出来る。でも毎日となると、途端に出来る人は少なくなる。大リーガーとは、そういうことが出来る人たちのことだ。

死に物狂いで生きるのは、権利じゃなくて、義務だ。

金がないから、何も出来ないというヤツは、たとえ金があっても、何も出来ない。

七月の行事

一、暁天坐禅会　第一日曜（五日）第三日曜（十九日）朝六時

一、地蔵尊・水子供養
　六月灯　観音様・鎮守神
　　二十四日　二時

◇御援助簿◇

田中チヨ子様よりお花代を頂きました。
有難うございました。

お知らせとお願い

コロナ禍で人間性が変わり年忌等をなさらない方がこのごろあるようです。お寺ばなれが少し見られるようになり。むかしの葬式仏教になりつつあり、又墓じまいもたのまれる事がちょこちょこあります。

私もお寺不在の時があり家内が電話に対応をしてくれるのですがお寺の方はわからないことばかりでこちらからかけなおす時もありますので昼まは私のケイタイ番号090-7981-9123まで夜は自宅の電話の方へおかけくださると助かります

これからお盆の時期となりますのでお願い致します。又初盆をなさる方は早目に日時をお知らせ下さいませ。13日と14日は初盆の日程がはいってきております。又護持会費（一年间の会費）未納の方は良ろしくお願い申し上げます。

・天地自然の恩・

人はただ一人では生きられない
多くの人や物に支えられ
生かされることによって生きている

これは仏教で説く三法印（仏教の三つの根本原理）の一つである。（諸法無我）を平易に普遍的に表現した言葉で、まさに名言であり箴言であります。ともすれば私たちは、自己中心的なエゴイストに陥りやすく、何

事も自分中心に物事を判断しがちになる面を持っています。そうした根因は、貪（あらゆる欲望）、瞋（つまらぬことに立腹する）、痴（正しい判断のできぬ愚かさ）の三毒の煩悩にあるわけで、それが災いの種となって、心の深奥にある清浄心がくらまされているのです。とかく私たちは、自分一人の力で生きているかのように錯覚しがちですが、考えてみれば、いかに偉大な人でも、自分一人の力では決して生きられません。生かされて生くるや今日のこの生命　天地の恩限りなき恩

仏教でも儒教でも、四恩（父母、師、天地自然界、衆生＝社会）を説きますが、その四恩のおかげなくして生きている人は、一人もありません。たとえば、空気、太陽、水、土といった天地自然の恩恵、このどれ一つが欠落しても、私たちは生きてはいけません。そうした支えやおかげを、仏教では「縁」といい、「冥助（みょうじょ）」と言いますが、そのご縁を私たちはともすれば忘れがちになり、当たり前だと錯覚しがちです。

箸とらば天地自然の恩を知れ　われ一力で食うと思うな

あるいはまた、体内の心臓にしても、瞬時の休みもなく鼓動し続けていればこそ、呼吸もできさらには百四十億の単細胞の一つひとつの働きによって生きられるのです。

縁は異なもの味なもの

という言葉があります。男女の縁は、不思議でおもしろいということです。その縁が人と人を結び付け、あるいは愛

を生み、あるときは憎しみを生み、あるときは神仏と出会い、その人の人生を大きく変えることもあります。

それを、仏教詩人の坂村真民先生は人生は深い縁（えにし）の不思議な出会いだと言ったのです。

縁は人間同士の縁だけでなく、それを通して、人生の不思議に気付かせてくれたり、悲しみを通して真実や悟りと出会わせてくれたりします。

そのような、真実との出会いを「仏縁」と言います。だまされて反省し、助けられて感憤すれば、順逆ともにありがたしという言葉があります。

失敗したり、恨まれたり、足を引っ張られたりする縁を「逆縁」と言います。

自分に逆らう縁という意味です。

それに対して、自分が助けられ、成長する縁は「順縁」と言います。

どのようにつらいことでもそれを縁として自分が成長し、感謝できるようになってみたら、心に逆らう縁も、助けられる縁もいずれも私を育ててくれていた、という感謝の言葉です。

生かされて生き抜く

と言った人がありますが、仏縁に生かされつつ、そこをよりよく生きていく人間の主体性が「縁」を真実にしていくのです。

天草に禅僧に鈴木正三という人がいます。島原の乱で荒れた島原地方の復興のために、努力した人です。この人は「万民徳用」などの本をたくさん書きました。庶民の人生、生活の場で仏の教えを実現してこそ、真実の仏法であると主張した人です。

この鈴木正三の言葉に、縁あるところを守るべしとあります。